

ART MEETS ARCHITECTURE  
COMPETITION 2001-2024

AAC POSTER COMPETITION  
2008-2013, 2020-2024

第24回  
学生立体アートコンペティション

# AAC 2024

**AAC**  
ART MEETS  
ARCHITECTURE  
COMPETITION



ご挨拶

アート・ミーツ・アーキテチャー・コンペティション（AAC）は、2001年に始まった当社主催の学生限定立体アートコンペです。

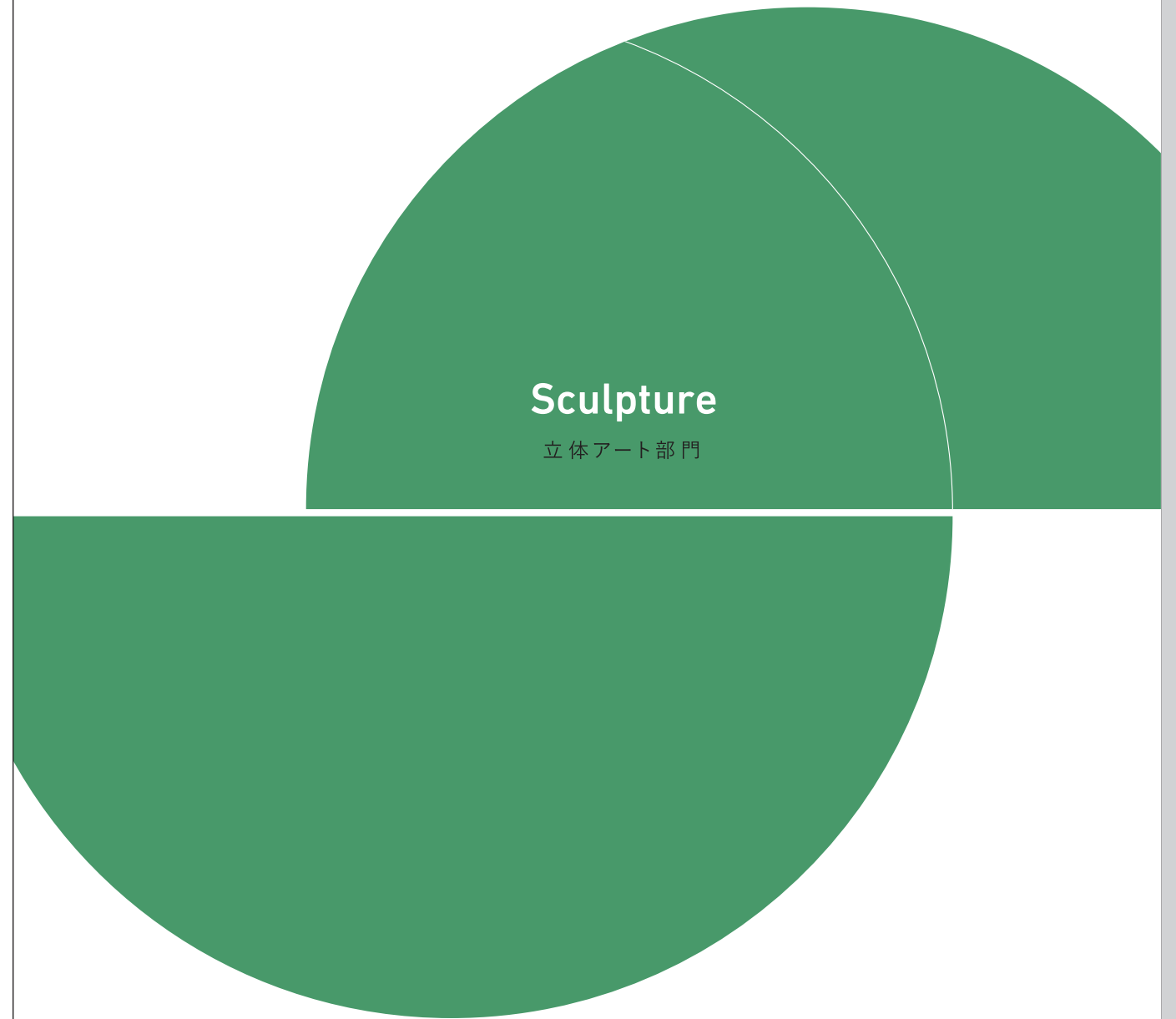
当社では、居住者にゆとりと遊びの空間を提供するため、自社開発したすべてのマンションのエントランスホールに彫刻や絵画などの芸術作品を展示して、ミニ美術館のような空間を創っています。その活動の中で、毎年何百人も芸大を受験し、その中から数十人が入学して、大学院へ十数名ほどが進んでも、卒業後も彫刻を続ける学生が1人いるかないかという現実を知りました。そこで、当社の活動を学生が知ることで、毎年数千棟と建つマンションのエントランスホールに彫刻を置くチャンスがあることに気付いて欲しいと思ったことから、AACを開始しました。

AACでは、最優秀賞を受賞した学生の作品が実際にマンションのエントランスホールに常設展示されます。自分の作品が公共の場所に設置されたという実績が、学生に対し卒業後プロとして活動していくうえでの自信につながり、活躍の場を広げるきっかけになればと考えています。

また、AACは公益社団法人企業メセナ協議会が主催する、企業が取り組むメセナ（芸術・文化振興による社会創造）活動を表彰する「メセナアワード2017」において優秀賞を受賞いたしました。私はこの活動が世の中の役に立ち、また、社会的な評価もいただいたことを大変うれしく思っております。

当社では、今後もこのコンペを継続することにより、若手芸術家の発掘、支援、育成に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社アーバネットコーポレーション  
代表取締役会長兼CEO  
服部 信治





最優秀賞

「Be yourself」

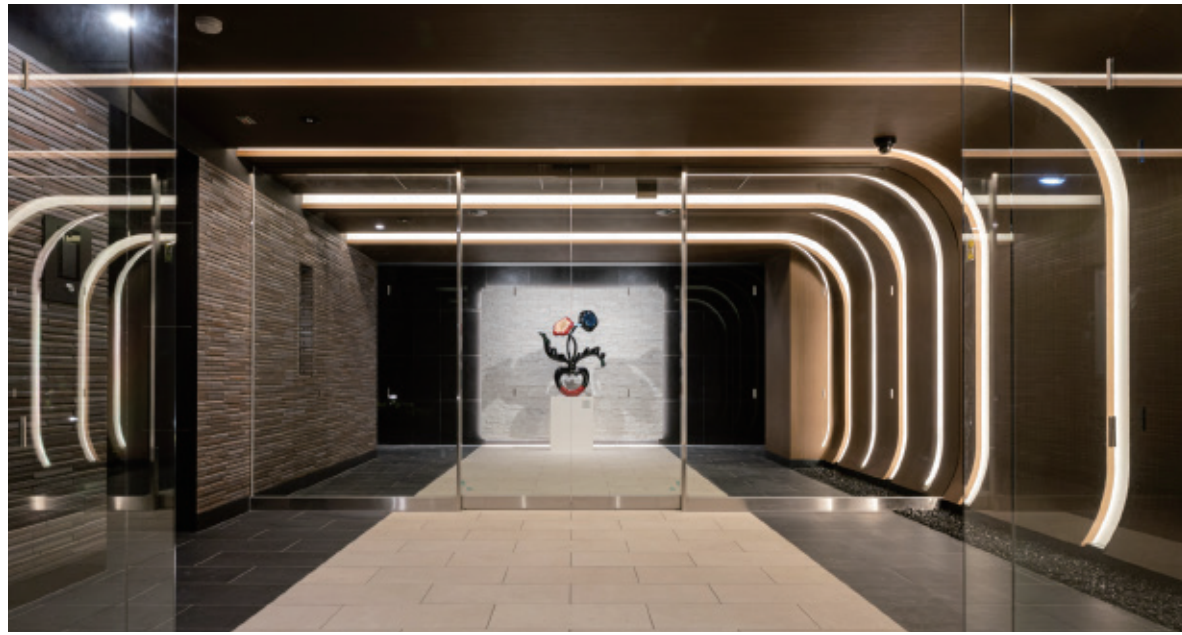
中居 瑞菜子  
東京藝術大学大学院  
美術研究科 工芸専攻 研究生



素材：漆







**[作品コンセプト]**

この作品は植物をモチーフにし、漆の艶と生命力を通じて神秘的な魅力を表現しています。繰り返される塗りと研ぎが深みのある質感を生み出し、現実と内なる意識の交差を感じさせます。不思議な動きで二方向に伸びた花は自由を象徴し、独自の色漆を使い華やかさを加えました。マンション住民の方々に自信を持って自分らしく過ごしてほしいというメッセージを込めています。

今回、最優秀賞を受賞できたことを大変光栄に感じています。AAC2022以来2回目の入賞で、学生として最後の挑戦だったため、特に意欲的に制作に取り組みました。前回の反省を活かしつつ、自分らしい作品を作り上げ、技術的な成長も実感できました。作品を公共の場に設置できたことは夢の実現であり、今後さらに技術を磨き作家として成長していきたいです。



**[作品設置場所]**

戸越プロジェクト  
 構造・規模：鉄筋コンクリート造8階建  
 総戸数：48戸  
 竣工年：2024年



戸越プロジェクト 外観



エントランスホール

**審査風景**

**[一次審査]**

氏名、性別、学校、受賞歴などのプロフィールは、完全に伏せた状態で書類審査を行う。最終審査に進む3作品と、入選数作品を選出する。



**[最終審査]**

実際に展示されるエントランスホールに作品を持ち込み、仮設置し、作者によるプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション終了後、最優秀賞を決定する。





優秀賞

「方舟」

三原 航大  
大阪芸術大学大学院  
芸術制作専攻 工芸領域 ガラス工芸コース



素材：ガラス、セメント、弁柄、鉄粉

【作品コンセプト】

この作品は、透明なガラスの舟形天板に成長する街を象徴するオブジェクトを配置し、内部には人々の想いが蓄積された過去の遺物を表すオブジェクトを組み合わせています。これにより、人々が協力し困難を乗り越えながら成長してきた歴史を表現しています。また、過去から現在までの人々の歴史と想いをガラス内に閉じ込め、永遠に残し伝え続けることを目指しています。

このコンペを通じて、限られた時間で効率的に作業する方法や新たな問題への対処法を学び、実践的な思考が鍛えられました。審査員の講評やアドバイスは、作品との向き合い方を見直す大きなきっかけとなりました。作品制作において、自分の表現だけでなく、見る人々の感じ方やメッセージが伝わるかどうかを考える重要性を学び、今後は作品が自立して意味を持ち続けるよう心がけたいと思います。



優秀賞

「黎明の途」

遠藤 由季子  
富山ガラス造形研究所  
研究科 2年



素材：ガラス

【作品コンセプト】

このガラス作品は、静かに存在しながらも動きの余韻を感じさせ、熱による軌跡と共に動いているような印象を持たせています。自然を思わせる表情や工業用ガラスの薄緑色が鑑賞者に癒しを与え、ブラウン基調の空間に映えます。繊細さと力強さを併せ持つこの作品は、これからここで始まる日々の営みの黎明と重なり合い、住居者と共に時間を紡いでいけるような、そんな想いを込めました。

この度、優秀賞を受賞できたことを大変光栄に思います。実制作の機会を得られたことに感謝し、公共の場での恒久展示を目指す中で多くの課題がありましたが、作品を展示できたことを嬉しく思います。審査員の講評を通じて自身の未熟さと成長の余地を感じ、今後もさらに良い作品を制作するために努力を続けていきたいと思っています。



入選

「石」

TAN JINNING

富山ガラス造形研究所  
造形科 2年

「海取り」

郭 國隆

東京藝術大学大学院  
美術研究科 工芸専攻

「Border」

新井 陽太

多摩美術大学大学院  
美術研究科 工芸専攻 ガラス研究領域

「Pathos;情熱が溢れ出る場所」

相園 顕

富山ガラス造形研究所  
造形科 1年

「風が通り抜ける」

馬 瑜蔚

京都市立芸術大学大学院  
美術研究科 陶磁器専攻

「滝の柱」

魏 洋昊

武蔵野美術大学大学院  
造形研究科 美術専攻 彫刻コース

「層々」

羅 伊然

東京藝術大学大学院  
美術研究科 素材造形専攻

「Moon with obelisk」

高橋 雄大

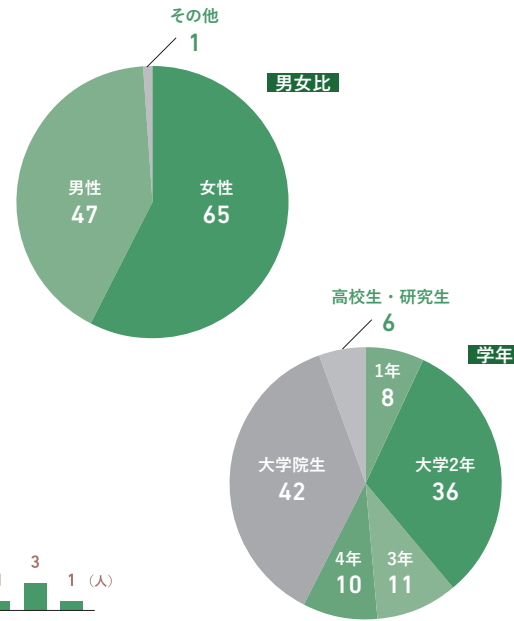
秋田公立美術大学大学院  
複合芸術研究科 2年

応募者集計結果

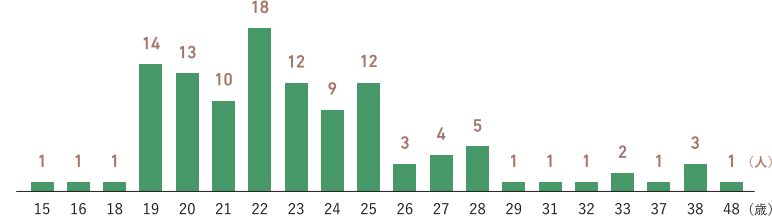
応募総数 **122** 作品 (2023年度: 114作品 / 2022年度: 93作品)

応募者数 **113** 名 (2023年度: 99名 / 2022年度: 82名)

平均年齢 **23.5** 歳 (2023年度: 22.6歳 / 2022年度: 23.2歳)  
※最年少15歳、最年長48歳



年齢



学校

広島市立大学・大学院	13	東京造形大学	2	九州大学	1
東京藝術大学・大学院	12	佐賀大学	2	京都美術工芸大学	1
富山ガラス造形研究所	11	名古屋芸術大学	1	京都精華大学	1
穴吹デザイン専門学校	9	尾道市立大学大学院	1	橘学苑高等学校	1
多摩美術大学	7	東北大学	1	沖縄県立芸術大学	1
金沢美術工芸大学・大学院	7	筑波大学	1	パンタン研究所	1
京都市立芸術大学・大学院	7	拓殖大学	1	九州工業大学	1
武蔵野美術大学	6	大同大学	1		
日本大学	5	石川県立輪島漆芸技術研修所	1		
大阪芸術大学・大学院	4	星槎道都大学	1		
近畿大学	4	女子美術大学	1		
東北芸術工科大学	3	市立札幌平岸高等学校	1		
秋田公立美術大学・大学院	3	慶應義塾大学	1		

都道府県

広島県	22	千葉県	2
東京都	19	秋田県	2
富山県	11	佐賀県	2
神奈川県	9	兵庫県	1
大阪府	8	山口県	1
石川県	8	埼玉県	1
京都府	7	宮城県	1
茨城県	5	岩手県	1
山形県	3	沖縄県	1
愛知県	3		
北海道	2		
福岡県	2		
奈良県	2		

審査員

審査員長



鈴木 芳雄

Yoshio SUZUKI

編集者 / 美術ジャーナリスト



三沢 厚彦

Atsuhiko MISAWA

彫刻家



藪前 知子

Tomoko YABUMAE

東京都現代美術館学芸員



服部 信治

Shinji HATTORI

主催会社 代表取締役会長 兼 CEO

ブルータス副編集長時代から世界各地で美術館、ギャラリー、アーティスト、コレクター、アートフェスを取材し、美術特集を多く手がける。担当した特集に「奈良美智、村上隆は世界言語だ!」「杉本博司を知っていますか?」「若冲を見たか?」など。共編著に『光琳ART 光琳と現代美術』『チームラポって、何者?』『村上隆のスーパーフラット・コレクション』『カルティエ、時の結晶』など。現在、アートと旅と本のメディア『モノクル』ディレクター。明治学院大学・愛知県立芸術大学非常勤講師。

1961年京都府に生まれる。1989年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。2000年動物の姿を等身大で彫像した木彫作品「ANIMALS」シリーズを制作開始。同年より西村画廊(東京)で個展開催。2007-08年平塚市美術館など全国5館で巡回展。以後、各地の美術館で展覧会を多数開催。近年の個展に、2021年北九州市立美術館、2022年新潟県立近代美術館、2023年千葉市美術館、石神の丘美術館(岩手)など。主な受賞歴に、2001年第20回平塚田中賞、2019年第41回中原二郎賞など。主な作品集に『ANIMALS NO.3』、『ANIMALS/Multi-dimensions』。(共に求龍堂)、『動物の絵』(青幻舎)など。パブリック・コレクション多数。神奈川県在住。

これまで担当した主な展覧会に、「大竹伸朗 全景 1955-2006」(2006)、「山口小夜子 未来を着る人」(2015)、「おとなも子どもも考える ここはだれの場所?」(2015)、「MOTアニュアル Echo after Echo 仮の声、新しい影」(2019)、「石岡瑛子 血が汗が、涙がデザインできるか」(2020)、「クリスチャン・マークレー トランスレーティング【翻訳する】」(2021) (以上、東京都現代美術館)、「マティス展」(2023、東京都美術館)、札幌国際芸術祭2017など。雑誌等に日本の近現代美術についての寄稿多数。

1950年福岡県生まれ。一級建築士大学卒業後、主にマンションの設計・企画・コンサルに携わる。1997年に設計事務所として株式会社アーバネットコーポレーションを設立し、多くの分譲用ファミリーマンションの設計等を手掛ける。その後、自社で土地を取得し、投資用ワンルームマンションを中心とした独自性のある開発事業を展開し、2007年に自社の株式をジャスダック証券取引所に上場させた設計士でありながら不動産開発会社を起こし上場させたという異色の経歴を持つ。一貫してマンションの設計に携わる中で、コンパクト性や機能性に偏り過ぎた日本のマンションにも、もっと文化的な要素を取り入れた と思うようになったことをきっかけに、自社で開発したマンションのエントランスにアートを取り入れるようになった。

総評

**鈴木 芳雄**——中居さんの作品は、ここに住む方々にとって、日々を共に過ごし、作品が育てて生き続けるという視点を持った、素晴らしい作品でした。実際に設置してみて、外の道路から少し見える部分や、近づいて一層よく見える場面で、この建物と一体となった作品の面白さを感じられ、とても魅力的でした。三原さんの作品は、マンションが建つ場所に関する徹底的な調査が印象的でした。中居さんと同様、住民と共に時間をかけて育っていくような感覚が、作品にうまく込められており、非常に歓迎される作品だと思います。また、照明によって一層引き立つ作品です。今後の彼の作品にも、大いに期待し、注目していきたいと思っています。遠藤さんの作品は、壁を支持体とする性格上、仮の壁で見なければならない不利さはありました。実際に壁に設置する場合は、高さ調整や、演出効果を施せば、一際引き立つものになるでしょう。

**三沢厚彦**——最優秀賞を受賞した中居さんの作品は、非常にクオリティが高く、サイズ感や見せ方も優れており、抽象的な形やモックアップが完璧に仕上げられていました。漆の発色は一般的に渋めの印象ですが、マンションの石やタイルといった硬質な素材の中に置かれることで空間が一変し、強い存在感を放っていました。遠藤さんの作品は、ガラスのクラックや素材を大胆に活かしたアプローチが特徴で、長く楽しめる作品でしたが、エポキシの使用には工夫が必要で、ガラスの接合には金物を大胆に使ってもいいかもしれません。これによりガラスの透過性が強調され、良い効果が期待できるかもしれないと感じました。三原さんの作品もガラスを使ったものでしたが、遠藤さんとは対照的に、ガラスを専門的に扱った素晴らしい作品でした。戸越銀座の歴史をテーマにしましたが、少しエイジングが気になりました。ガラスは特に固着が難しく、有機

溶剤を使用しなければならない場合が多いのですが、その有機溶剤がべんがら(酸化鉄)の発色を鈍らせてしまったのかもしれない。

**藪前 知子**——今回のコンペでは、パブリックな場所に恒久的に設置するという点が大きな要件となっており、コンセプトや技術の面でも「時間」をどうコントロールするかが大きなテーマだったと感じました。3作品はいずれもそのテーマに向き合っていました。三原さんの作品は、ガラスという恒久的な素材を用いて、戸越という場所の歴史をどのように表現し、マンションの住民とどのように共有していくかをテーマにしていました。テーマとしては、この土地に最もフォーカスした作品だと感じました。ただ、エイジングは少しトゥーマッチだったかなと惜しさを感じました。遠藤さんの作品は工業ガラスがクラックしていく、脆さ、時間とともに朽ちていくものを技術として、ガラスに取り込んだということ素材に対してある種の抵抗を生み出すということがすごく先進的で、芸術作品としてもすごく面白いコンセプトだと思いました。中居さんの作品は漆という素材自体が防霉・防水効果など、木を無時間的なものにする素材を使ったということで、すごくうまく作品になっているなと思いました。デザインの面でも、ちょっと懐かしい昭和のファンシーなテーブルクロス柄みたいな感じもありつつ、ちょっと未来的な感じもあっていて、無時間的ですがすごく面白いデザインでした。



# ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION 2024

株式会社アーバネットコーポレーション



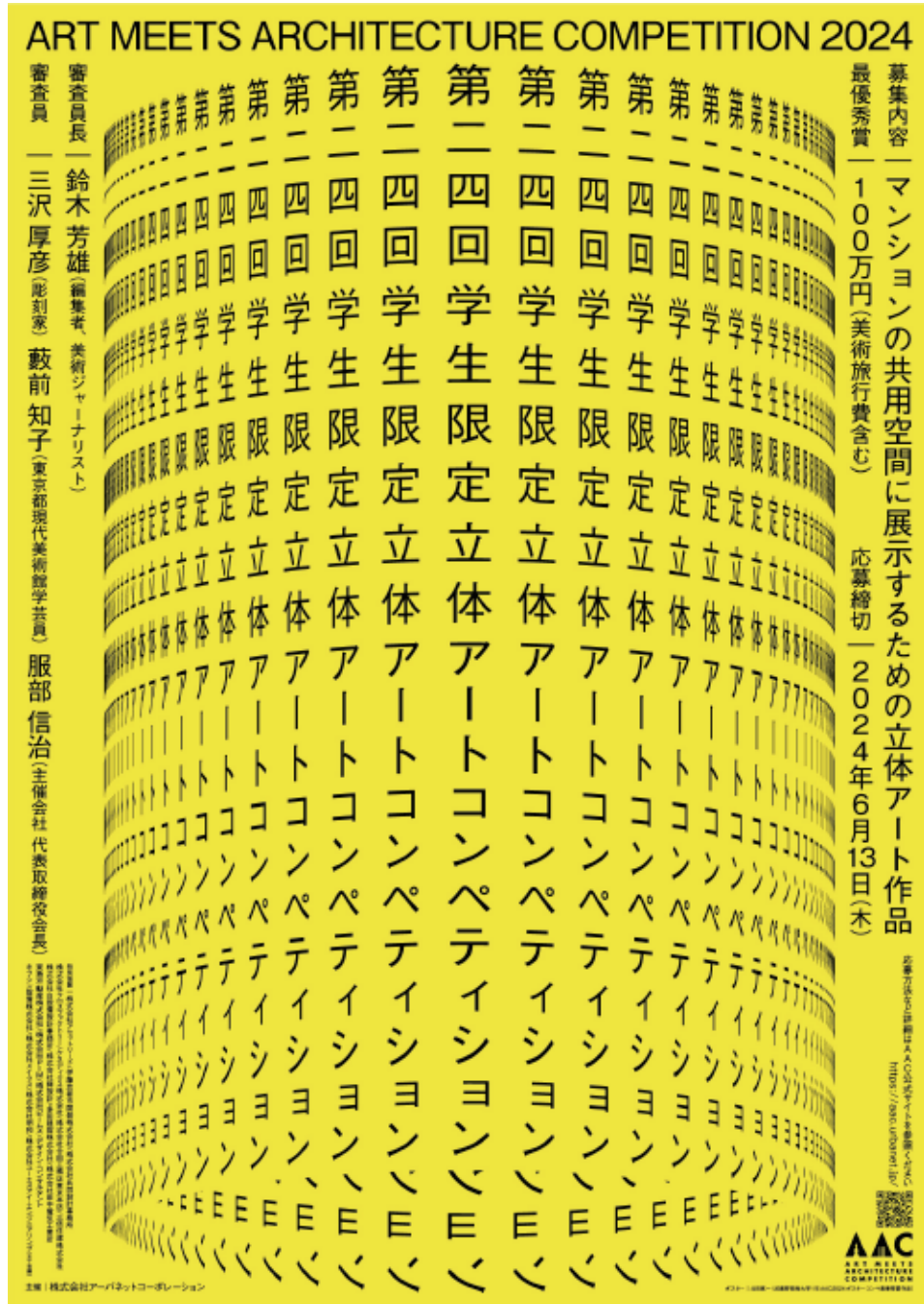
Poster ポスター部門



最優秀賞

「円柱 want you」

北田 恵一  
 武蔵野美術大学  
 造形学部 視覚伝達デザイン学科 1年



応募時の作品

アートコンペの名称が羅列されることで、  
 円柱という新たな意味が生まれるという点が  
 面白いと思い、文字のみを使って立体を表現しました。  
 ブラッシュアップでの細かな調整で情報が整理され、格段に見やすくなったことに感動し、文字を通した情報伝達の奥深さを  
 知りました。安易な韻を踏んだ題名には、このポスターを見た  
 人が気軽にコンペに参加してほしいという願いを込めています。  
 この度は素敵な賞をいただき、本当にありがとうございました。  
 今回の貴重な経験を糧にこれからも頑張ります。

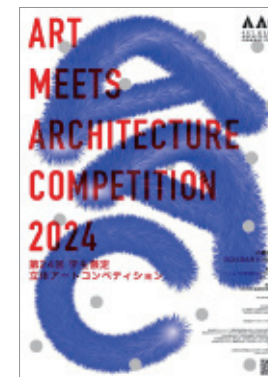


入選

「光+陰=立体」  
 長谷川 諒  
 東京藝術大学大学院  
 美術研究科 デザイン専攻



「創造の楽しみ」  
 岩田 湖春  
 多摩美術大学 美術学部  
 グラフィックデザイン学科 2年



「作品の光と影」  
 青山 一路  
 武蔵野美術大学 造形学部  
 視覚伝達デザイン学科 2年



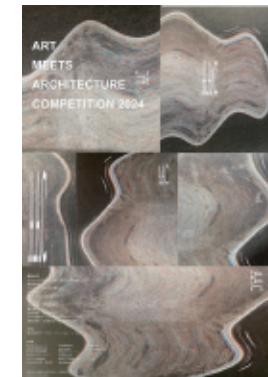
「膨らむ創造」  
 正井 優  
 東京デザインプレックス研究所  
 デジタルコミュニケーションデザイン総合コース



「Distortion」  
 坂木 宇宙  
 東京工芸大学 芸術学部  
 デザイン学科 3年



「ドン!」  
 戸塚 阿生  
 武蔵野美術大学 造形学部  
 空間演出デザイン学科 3年



「立体であそぼう」  
 池田 憲多朗  
 多摩美術大学 美術学部  
 グラフィックデザイン学科 2年





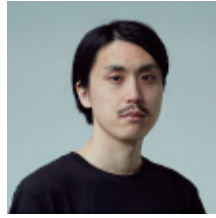
## 審査員

### 審査員長



宮本 武典  
Takenori MIYAMOTO  
キュレーター/  
東京藝術大学准教授

1974年奈良市生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。海外子女教育振興財団の派遣プログラムでバンコク赴任、武蔵野美術大学バリ賞受賞により渡仏、原美術館学芸部を経て2005年に東北芸術工科大学へ。2019年3月まで同大学教授・主任学芸員を務め、東北各地でアートプロジェクトや東日本大震災の復興支援事業を牽引する。2014年に『山形ビエンナーレ』を創設しプログラムディレクションを3期にわたって手がける（～2018年）。2019年に角川武蔵野ミュージアム（隈研吾氏設計）開館事業にクリエイティブディレクターとして参加。国際芸術祭「東京ビエンナーレ2020/2021」プロジェクトディレクターを経て、2022年4月より東京藝術大学美術学部准教授。



佐々木 俊  
Shun SASAKI  
グラフィックデザイナー

2010年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。アドブレン、グリッツデザインを経て、2016年AYOND（アヨンド）を設立。2020年JAGDA新人賞受賞。これまでに、詩人・最果タヒの『夜空はいつでも最高密度の青色だ』等の著書や詩の展示構成、2019年展覧会「デザインの（居）場所」（東京国立近代美術館）、2021年展覧会「200年をたがやす」（秋田市文化創造館）、2021年「NHK紅白歌合戦」番組ロゴ等のデザイン・アートディレクション、2023年「ハヤカワ新書」装丁などを担当。参加展示に、2018年「ことばをながめる、ことばとあるく一詩と歌のある風景」（太田市美術館・図書館）などがある。著書として『くるまのえほん ぶるばびぶーん』（福音館書店）がある。



服部 信治  
Shinji HATTORI  
主催会社 代表取締役会長 兼 CEO

1950年福岡県生まれ。一級建築士大学卒業後、主にマンションの設計・企画・コンサルに携わる。1997年に設計事務所として株式会社アーバネットコーポレーションを設立し、多くの分譲用ファミリーマンションの設計等を手掛ける。その後、自社で土地を取得し、投資用ワンルームマンションを中心とした独自性のある開発事業を展開し、2007年に自社の株式をジャスダック証券取引所に上場させた設計士でありながら不動産開発会社を起こし上場させたという異色の経歴を持つ。一貫してマンションの設計に携わる中で、コンパクト性や機能性に偏り過ぎた日本のマンションに、もっと文化的な要素を取り入れた と思うようになったことをきっかけに、自社で開発したマンションのエントランスにアートを取り入れるようになった。

### 【総評】

宮本武典——最優秀賞の作品は、フォントへのこだわりを外して、平面で立体を伝えることをシンプルにやっていて、若者らしい諧謔味もあり、デザインがどうこうの前に実は僕はその「外し」にセンスを感じました。LINEなどスマホ画面で飛び交う文字・言葉感やスワイプ感もあって、まさに「いま」な感覚から出てきた提案だと思います。AACポスターコンペ歴代受賞作のなかでも異彩を放っていて、これは来年以降、ハードルを上げられちゃったなあという感じです。つまりレイアウトの巧みさやクライアントの意向に応えることはもちろん、最優秀を獲るにはさらに、「グラフィックデザイン」という領域そのものを更新・拡張する実験精神も求められる、ということです。

佐々木俊——立体アート作品の募集告知ポスターということで、どのように「立体」や「空間」を平面の中で表現するかが課題です。技術はあるのに、過去を受賞作に倣ったようなアイデアであったり、表現の核となる部分が不明瞭だったりする作品が少なからず見受けられました。その中で、北田さんのポスターは、文字の組み方に絞って立体感を示すという他にない新鮮なアプローチでした。反復する言葉が、コンクリートポエトリーのようにも、応募作の中で異質でした。「おー、こういうやり方があったか!」と驚かされました。ブラッシュアップしていく過程でも、北田さんの中に備わっているこだわりや美学を守りながら、みるみるレイアウトが良くなっていく様子に嬉しくなりました。最優秀賞に相応しい作品です。

## 審査風景・表彰式・ブラッシュアップ打合せ

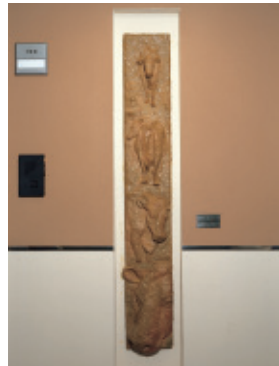




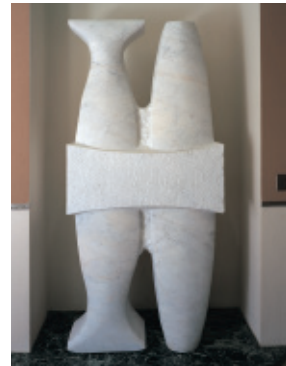
HISTORY OF AAC 2001-2024 | 2001-2012

今までの最優秀賞作品を全てご紹介いたします。

2001



高橋桃 | 牛I



伴翼 | akka

2002



藤本明洋 | 目に見える偶然



2007



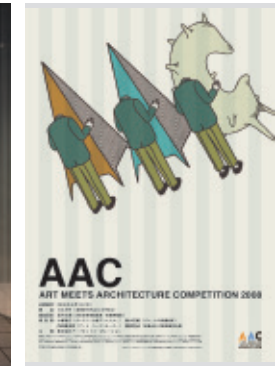
岩田秀和 | Balance - from a division body -



2008

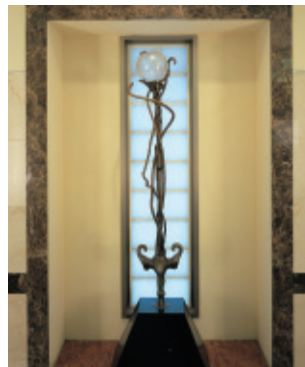


小椋聡子 | ゆるやかなときのながれのなかで

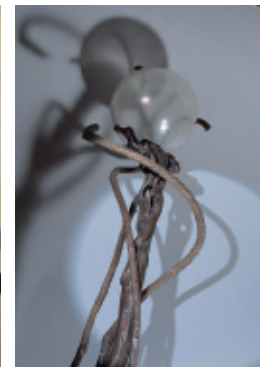


佐野夏記 | (作品タイトルなし)

2003



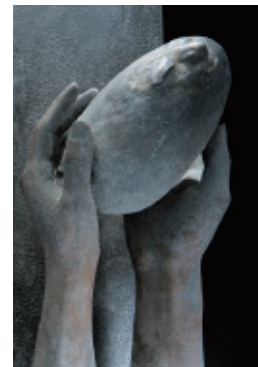
柳原絵夢 | monk's habit



2004



青柳慎 | Family's scenery



2009



八木貴史 | 天上の虹



村岡あさこ | 手に豆が出来る程

2010



宮原嵩広 | A.S.series「第二の扉」

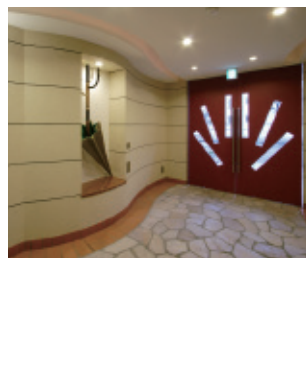


増川友梨・齋藤菜月 | HOUSE AAC

2005



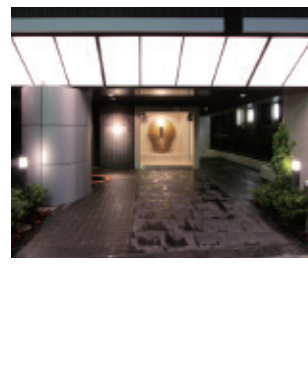
武藤亜希子 | その木が生える場所



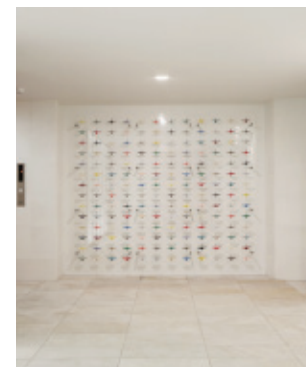
2006



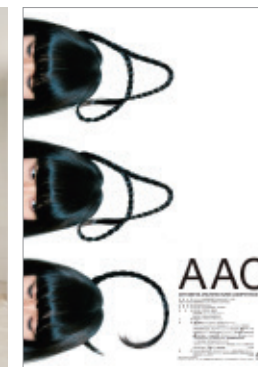
堀園実 | 息を止めてきこえるリズム



2011



堀康史 | HOPE



藤平奈央子 | 平面から立体へ

2012



帆足枝里子 | 景



戸塚香里 | あたらしい鏡



HISTORY OF AAC 2001-2024 | 2013-2024

2001年からスタートしたAACは、2024年で24回目の開催となりました。  
 手探りでスタートした第1回目の応募数は、4作品。  
 その中から立体作品1点、レリーフ作品1点が最優秀賞に選ばれました。  
 アート界で活躍されている多くの方々が審査にご協力くださり、  
 少しずつですが応募数も増え、毎年全国から多彩な作品が寄せられています。  
 今後もこのコンペを継続することにより、若手芸術家の発掘・支援・育成に努めてまいります。

2013



村上仁美 | eternal moment

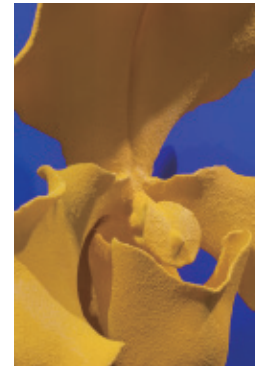


関谷大志朗 | なにをみる。

2014



井田大介 | UNTITLED



2019



白谷琢磨 | the city



2020



勝川夏樹 | Microcosm

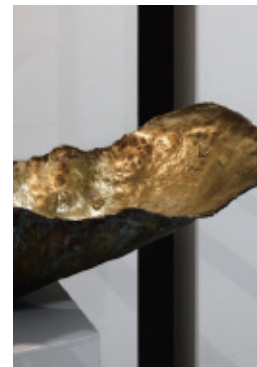


藤田理紗子 | 空間に産む

2015



渡辺志桜里 | ひとつのうみ



2016



古川千夏 | GEMME



2021



魄楠 | Power of Flower



大橋佐和子 | get bigger

2022



平尾祐里菜 | 千種万花

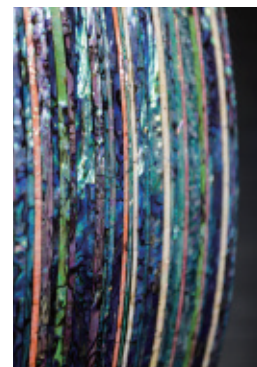


鮎川裕之伸 | 作る

2017



金俊来 | Waterfall



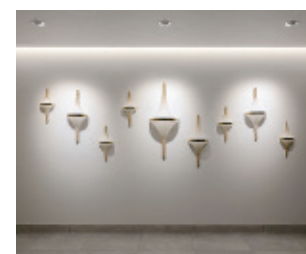
2018



雷康寧 | Be water my friend



2023



洪詩楽 | 星群

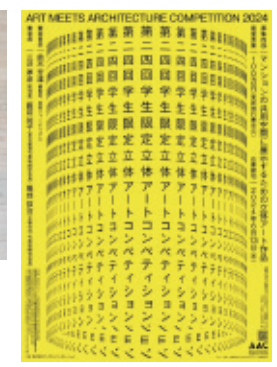


松井寛太 | 試行錯誤

2024



中居瑞菜子 | Be yourself



北田恵一 | 円柱 want you



HISTORY OF AAC 2001-2024 | DATA

2001 最優秀賞 高橋桃 | 牛I 東京造形大学大学院
優秀賞 大成哲 | いち 日本大学
審査員 山口史貴 東京造形大学
高岡典男 彫刻家
古賀賢治 アートディレクター/株式会社CYA 代表取締役社長
櫻庭春來 画家
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト用賀アジールコート (東京都 世田谷区)

2002 最優秀賞 藤本明洋 | 目に見える偶然 明星大学大学院
優秀賞 三神慎一郎 | 彼女は見ている、彼女の世界観 東京藝術大学
森園雅明 | slow life | 日本大学 彫刻専攻 3年
審査員 金澤毅 美術評論家/成安造形大学名誉教授/元 原美術館館長
加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
高岡典男 彫刻家
古賀賢治 アートディレクター/株式会社CYA 代表取締役社長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 パテラ百合ヶ丘グランアジール (神奈川県 川崎市)

2003 最優秀賞 柳原絵夢 | monk's habit 東京藝術大学大学院
優秀賞 青柳慎 | 見知らぬワタシ 京都造形芸術大学大学院
安部公房 | 無題 武蔵野美術大学大学院
森貴也 | ここから... 大分大学大学院
審査員 金澤毅 美術評論家/成安造形大学名誉教授/元 原美術館館長
正木基 美術評論家/目黒区美術館 学芸員
加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
高岡典男 彫刻家
古賀賢治 アートディレクター/株式会社CYA 代表取締役社長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージグランデ三軒茶屋アジールコート (東京都 世田谷区)

2004 最優秀賞 青柳慎 | Family's scenery 京都造形芸術大学大学院
優秀賞 今井紫緒 | 組み立てられた時間 東京藝術大学大学院
本田祐介 | a part 東北芸術工科大学
審査員 金澤毅 美術評論家/成安造形大学名誉教授/元 原美術館館長
高岡典男 彫刻家
古賀賢治 アートディレクター/株式会社CYA 代表取締役社長
清水敏男 美術評論家/学習院女子大学教授
加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト三軒茶屋アジールコートII (東京都 世田谷区)

2005 最優秀賞 武藤亜希子 | その木が生える場所 東京藝術大学大学院
優秀賞 佐脇遥 | Tom Cat 2005 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ
向川未桜 | 杜の子 北海道教育大学 芸術文化課程 美術 1年
柳公絵 | 成長 長岡造形大学
審査員 岡部あおみ 美術評論家/武蔵野美術大学教授
保科豊巳 現代美術家/東京藝術大学助教授
広本信幸 @ギャラリータグポート 担当ディレクター
真壁佳織 美術ジャーナリスト
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト田園調布アジールコート (東京都 世田谷区)

2006 最優秀賞 堀園実 | 息を止めてきこえるリズム 沖縄県立芸術大学
優秀賞 北川太郎 | 時空ピラミッド 愛知県立芸術大学大学院
武末裕子 | membran 東京藝術大学大学院
審査員 青木淳 建築家
宮村周子 編集者/ライター
小山登美夫 小山登美夫ギャラリーオーナー
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト板橋仲宿アジールコート (東京都 板橋区)

2007 最優秀賞 岩田秀和 | Balance -from a division body- 東京藝術大学大学院
審査員特別賞・優秀賞 小泉悟 | 経過する時間 沖縄県立芸術大学大学院
優秀賞 井川彩子 | ゆるり 東京藝術大学大学院
審査員 南條史生 森美術館館長
西沢立衛 建築家/ライター
佐谷周吾 ギャラリスト/シュウゴアーツ代表
児島やよい キュレーター/コーディネーター/ライター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト両国南アジールコート (東京都 墨田区)

2008 最優秀賞 小椋聡子 | ゆるやかなときのながれのなかで 東京藝術大学大学院
優秀賞 三上賢治 | Wall 広島市立大学大学院
奥村太郎 | ときのなみ 京都市立芸術大学大学院
審査員 酒井忠康 世田谷美術館館長/美術評論家
小柳敦子 ギャラリー小柳ディレクター
鈴木芳雄 マガジンハウス フルータス 副編集長
内田真由美 アート・コーディネーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 アジールコート荻窪 (東京都 杉並区)

[ポスター部門]
最優秀賞 佐野夏記 静岡文化芸術大学 デザイン学部
審査員特別賞 早川裕子 武蔵野美術大学
審査員 鈴木芳雄 マガジンハウス フルータス 副編集長
菊地敦己 Bluemarkアートディレクター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2009 最優秀賞 八木貴史 | 天上の虹 武蔵野美術大学大学院
優秀賞 片井彩霞 | うづくまる 九州産業大学大学院
本郷芳哉 | 立つこと 東京藝術大学
審査員 小池一子 クリエイティブディレクター
堀元彰 東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーター
白石正美 白石コンテンポラリーアート代表
北澤ひろみ キュレーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 アジールコート武蔵小杉 (神奈川県 川崎市)

[ポスター部門]
最優秀賞 村岡あさこ | 手に豆が出来る程 多摩美術大学
審査員 えぐちりか アーティスト/アートディレクター
北澤ひろみ キュレーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2010 最優秀賞 宮原嵩広 | A.S.series 「第二の扉」 東京藝術大学大学院
優秀賞 堀康史 | セルメン 多摩美術大学
小野真由 | 彩 多摩美術大学
審査員 新見隆 デザイン・美術評論家/キュレーター
植松奎二 芸術家
千葉由美子 ユミコチバアソシエイツ代表
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 AXAS森下sta. (東京都 江東区)

[ポスター部門]
最優秀賞 増川友梨・齋藤菜月 | HOUSE AAC 女子美術大学
審査員 杉山ユキ 株式会社博報堂 アートディレクター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2011 最優秀賞 堀康史 | HOPE 多摩美術大学
優秀賞 帆足枝里子 | 土塊 女子美術大学大学院
向川千世 | 時を紡いで 大阪教育大学大学院
酒井忠康 世田谷美術館館長/美術評論家
岩淵貞哉 月刊『美術手帖』編集長
内田真由美 アート・コーディネーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト両国アジールコート (東京都 墨田区)

[ポスター部門]
最優秀賞 藤平奈央子 | 平面から立体へ 日本大学
審査員 帆足英里子 株式会社ライトパブリシティアートディレクター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2012 最優秀賞 帆足枝里子 | 景 女子美術大学大学院
優秀賞 グループ名: 金保/平山 - 金保洋・平山里紗 | 結 金沢美術工芸大学
山口恵美 | catena 佐賀大学大学院
審査員 南條史生 森美術館館長
広本伸幸 実践美学者
児島やよい キュレーター/コーディネーター/ライター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 AXAS上野北 (東京都 台東区)

[ポスター部門]
最優秀賞 戸塚香里 | あたらしい鏡 武蔵野美術大学
審査員 長嶋りかこ 博報堂 アートディレクター/デザイナー
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2013 最優秀賞 村上仁美 | eternal moment 愛知県立芸術大学大学院
優秀賞 大野晴美 | Human sign 女子美術大学大学院
安達淳 | 表出 武蔵野美術大学大学院
審査員 土屋公雄 彫刻家/愛知県立芸術大学教授
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長
宮村周子 編集者/ライター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージグランデ蒲田アジールコート (東京都 大田区)

[ポスター部門]
最優秀賞 関谷大志朗 | なにをみる。 関西大学大学院
審査員 高井薫 株式会社サン・アドアートディレクター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2014 最優秀賞 井田大介 | UNTITLED 東京藝術大学大学院
優秀賞 穴井麻美 | 見つめる 多摩美術大学大学院
グループ名: 進藤・山崎・前原・横田 | フォトンの日々
進藤篤 東京藝術大学大学院
山崎明史 日本大学大学院
前原良平 日本大学
横田安紀 日本大学
審査員 塩田純一 新潟市美術館館長/美術評論家
岩淵貞哉 月刊『美術手帖』編集長
森千花 東京都現代美術館 学芸員
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 グランドコンシェルジュ新御徒町アジールコート (東京都 台東区)

2015 最優秀賞 渡辺志桜里 | ひとつのうみ 東京藝術大学大学院
優秀賞 佐藤風太 | 気配 東京藝術大学
金俊来 | 日の出 京都市立芸術大学大学院
清水敏男 TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE代表
鈴木芳雄 編集者/美術ジャーナリスト/愛知県立芸術大学客員教授
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージグランデ清澄白河アジールコート (東京都 江東区)

2016 最優秀賞 古川千夏 | GEMME 広島市立大学大学院
優秀賞 中尾俊祐 | Corona 和歌山大学
堀田光彦 | 朝の輝き 東京藝術大学大学院
秋元雄史 東京藝術大学大学院美術館館長/金沢21世紀美術館館長
望月かおる 月刊『美術手帖』副編集長
内田真由美 アート・コーディネーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト蔵前IIアジールコート (東京都 台東区)

2017 最優秀賞 金俊来 | Waterfall 京都市立芸術大学大学院
優秀賞 後藤宙 | Heterogen 東京藝術大学大学院
土井彩香 | Starting from white 東京藝術大学大学院
審査員 堀元彰 東京オペラシティアートギャラリーチーフ・キュレーター
三沢厚彦 彫刻家
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 AXAS代々木八幡アジールコート (東京都 渋谷区)

2018 最優秀賞 雷康寧 | Be water my friend 東京藝術大学大学院
優秀賞 佐野圭亮 | 現の秤 東京藝術大学大学院
堀田光彦 | 精神の美 東京藝術大学大学院
審査員 馬淵明子 国立西洋美術館館長
ヤノベケンジ 現代芸術作家
内田真由美 アート・コーディネーター
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 ステージファースト両国IIアジールコート (東京都 墨田区)

2019 最優秀賞 白谷琢磨 | the city 東京藝術大学大学院
優秀賞 番原耕一郎 | Neighbor 広島市立大学大学院
五十嵐亮太 | 半分の阿吽 東京藝術大学大学院
審査員 藤森照信 建築家/建築史家/東京都江戸東京博物館館長
橋本麻里 ライター/エディター/公益財団法人永青文庫副館長
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 アジールコート台東根岸 (東京都 台東区)

2020 最優秀賞 勝川夏樹 | Microcosm 東京藝術大学大学院
優秀賞 グループ名: hamuhamu - 早坂雅寿・堀真代 |
ひとつときひとつとき 東京都立大学
山崎稚子 | むれやなぎ 文化服装学院
審査員 片岡真実 森美術館 館長
宮津大輔 アート・コレクター/横浜美術大学 学長
大成哲 彫刻家/第1回AAC優秀賞受賞
服部信治 主催会社 代表取締役社長
設置場所 メイクス新中野アジールコート (東京都 中野区)

[ポスター部門]
最優秀賞 藤田理紗子 | 空間に産む 女子美術大学
審査員 森井ユカ 立体造形家/雑貨コレクター
古平正義 アートディレクター/デザイナー
服部信治 主催会社 代表取締役社長



**2021** 最優秀賞 隼楠 | Power of Flower 京都市立芸術大学大学院  
 優秀賞 袁方洲 | さんすいの間 東京藝術大学大学院  
 山口聡士 | 蜃気回層 東京工業大学大学院  
 審査員 青木淳 建築家/京都市美術館館長  
 荒神明香/南川憲二 現代アートチーム 目[mé]  
 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長/  
 日本現代美術商協会 (CADAN) 代表理事  
 服部信治 主催会社 代表取締役社長  
 設置場所 ステージグランデときわ台アジールコート (東京都 板橋区)

[ポスター部門]

最優秀賞 大橋佐和子 | get bigger 呉工業高等専門学校  
 審査員 古平正義 アートディレクター/デザイナー  
 ナカムラクニオ 「6次元」主宰/映像ディレクター  
 服部信治 主催会社 代表取締役社長

**2022** 最優秀賞 平尾祐里菜 | 千種万花 広島市立大学大学院  
 優秀賞 袁方洲 | サクラの柱 東京藝術大学大学院  
 中居瑞菜子 | 杜の黎明 東京藝術大学大学院  
 審査員 保坂健二郎 滋賀県立美術館ディレクター (館長)  
 岩淵貞哉 「美術手帖」総編集長  
 大竹利絵子 彫刻家  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO  
 設置場所 錦糸町Vプロジェクト (東京都江東区)

[ポスター部門]

最優秀賞 鮎川裕之伸 | 作る 多摩美術大学  
 審査員 ナカムラクニオ 「6次元」主宰/映像ディレクター  
 上西祐理 アートディレクター/グラフィックデザイナー  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO

**2023** 最優秀賞 洪詩楽 | 星群 多摩美術大学  
 優秀賞 杉森杏香 | 日々泡 京都市立芸術大学大学院  
 五十嵐俊治 | Kasane 東京大学大学院  
 審査員 秋元雄史 東京藝術大学名誉教授/美術評論家  
 西澤徹夫 建築家  
 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長/  
 日本現代美術商協会 (CADAN) 副代表理事  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO  
 設置場所 西大井プロジェクト (東京都品川区)

[ポスター部門]

最優秀賞 松井寛太 | 試行錯誤 多摩美術大学  
 審査員 上西祐理 アートディレクター/グラフィックデザイナー  
 宮本武典 キュレーター/東京藝術大学准教授  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO

**2024** 最優秀賞 中居瑞菜子 | Be yourself 東京藝術大学大学院  
 優秀賞 三原航大 | 方舟 大阪芸術大学大学院  
 遠藤由季子 | 黎明の途 富山ガラス造形研究所  
 審査員 鈴木芳雄 編集者/美術ジャーナリスト  
 三沢厚彦 彫刻家  
 藪前知子 東京都現代美術館学芸員  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO  
 設置場所 戸越プロジェクト (東京都品川区)

[ポスター部門]

最優秀賞 北田恵一 | 円柱 want you 武蔵野美術大学  
 審査員 宮本武典 キュレーター/東京藝術大学准教授  
 佐々木俊 グラフィックデザイナー  
 服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO

## AAC2024 立体アートコンペティション概要

募集期間	2024年4月10日～6月13日
募集内容	設置場所の空間を生かした立体アート作品
条件	1. 未発表のオリジナル作品 2. 展示場所にアンカー等で固定できる形状 3. マンションの入居者にとって安全で心地よさを感じさせる作品 4. 電源の供給を必要とする作品は不可
設置場所	戸越プロジェクト (東京都品川区) のエントランスホール
素材	石・鉄・FRP 等、長期展示に耐えうる材質
作品サイズ	幅2000×奥行900×高さ2000 (mm) に収まるもの/台座置き 約100kg/壁付け 約30kg以下
応募資格	全国の大学・大学院・短期大学・専門学校・高校等で、 美術・芸術・デザイン・建築・空間演出等を学んでいる学生 (グループ可)
応募点数	複数応募可
賞	最優秀賞 (1点) …… 賞金総額100万円 (美術旅行費を含む)/作品は作者名(グループ名)の入ったプレートと共にマンションに常設設置 優秀賞 (2点以上) …… 賞金20万円 入選 (数点) …………… 賞金5万円
制作補助金	一次審査を通過した入賞作品 (3点以上) には制作補助金として20万円+搬出入費を支給 ※遠方者の交通費・宿泊費も別途支給
協賛企業 ※50音順	特別協賛  株式会社アセットリード/伊藤忠都市開発株式会社/株式会社共同設計事務所/ 株式会社クロスファクトリー/ケネディクス株式会社/株式会社合田工務店東京本店/ 三信住建株式会社/株式会社白設備設計事務所/株式会社陣設計/多田建設株式会社/ 株式会社田中電気工業所/東急不動産株式会社/株式会社PIM/ 株式会社ビームス・デザイン・コンサルタント/ホクシン設備株式会社/株式会社メイクス 株式会社明和/株式会社ユーエスアイ・エンジニアリング  協賛  株式会社朝倉崇夫都市建築設計事務所/株式会社エル設計事務所/カイト工業株式会社/ 株式会社核建築設計事務所/有限会社キューオーエルクリエーション一級建築士事務所/ 株式会社グッドライフスタイルプラス/京王建設株式会社/株式会社後藤組/株式会社コルピソス/ 坂田建設株式会社/三誠産業株式会社/株式会社シーファイブ/株式会社住宅新報/新三平建設株式会社/ 株式会社第一ヒューテック/株式会社都市建コーポレーション/株式会社中村建工/株式会社ニシヤマ建築デザイン 日ポリ化工株式会社/株式会社不動産経済研究所/株式会社吉田正志建築設計室
賛助	株式会社アクシード設計事務所/イデア株式会社/株式会社ウミイチ/ エスバスリエ建築工房一級建築士事務所/株式会社グローブアドバンス/篠崎・進士法律事務所/ 株式会社スタイレックス・アーキテクト/株式会社スタイレックス・デベロップメント/タカラスタンダード株式会社/ 株式会社地域環境開発/ナチュラルデザイン/株式会社柳学アーキテクト

【発行日】 2025年1月30日 【発行所】 株式会社アーバネットコーポレーション 〒100-6035 東京都千代田区豊が岡3-2-5豊が岡ビルディング35階 TEL: 03-6550-9160 (代) 【デザイン】 YUKA DESIGN Co., Ltd.

